

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100444		
法人名	医療法人 岩河会		
事業所名	グループホーム びらふ		
所在地	高知県香美市香北町美良布1298番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然がいっぱいで、町の中心地にホームがある。周辺には、良心市や商店、病院、美容院、道の駅があり、散歩や買い物に出かけるなどの生活環境に恵まれている。また、地域の特性を生かした、干し柿・干し皮芋・干し大根などの加工食品も利用者と一緒で作っている。地域の方からの野菜や花の差し入れや行事に来られるなど、近隣の方との交流が継続できている。ホームの庭先には、花壇や畑があり季節感を身近に感じたり、畑で育てた野菜を利用者と一緒収穫するなど、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で生活されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3972100444-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には、JAや地元スーパーの店舗、理美容店、良心市、郵便局などがあり、買い物や散歩のときに地域住民と触れ合う機会に恵まれている。事業所脇の農道を通る住民も多く、利用者が庭にいる時に馴染みの人が声をかけてくれる。また、事業所は、母体法人の診療所と老人保健施設に隣接し、医療面での連携が取りやすい環境にある。運営推進会議では、年間で設定したテーマに基づく勉強会を実施し、認知症や防災、ケアの内容等について参加者と一緒に理解を深めている。家族も8名程度参加しており、事業所の運営が周知されている。事業所の廊下や居間、トイレ等の共用空間が広く、全体的にゆったりとした雰囲気を持ち、大きな窓ガラスからの採光や眺望も良く、開放感がある。利用者は事業所の畑での野菜づくりや洗濯物干し等自分のできることを職員と一緒にいき、職員は利用者の経験に学びながら、理念である「共に生きている喜びを感じられる」支援に日々努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：Aユニット、Bユニット共通

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで通りの生活を送ることができるように、買い物や散歩で出会った人と気軽に声を掛け合っているような、知り合いの関係が継続できるよう理念をつくりあげている。	利用者と職員が共に生活する喜びを感じ、互いに向上しながら地域との関係づくりを行うという理念を作成し、ユニット会や全体会で理念の意義を話し合い、日々の取り組み内容の振り返りと具体的な実践への協議を通して職員に意識付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店、移動販売車を利用するなど、行ったり来たりすることで会話がはずみ、今までのより良い関係が途切れることがないように、日々取り組んでいる。	地区の清掃や防災訓練、保育園の夏祭りやバザー等に参加し、事業所の運動会等には近隣住民に参加してもらうなど地域と交流している。また、地元商店やスーパーでは買物の便宜を図ってくれたり、同じ趣味を持つ知人の来訪もあり、日常的に地域とのつきあいができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入の際、ホームの成り立ちや理念を伝え、地域と支え合いながら暮らす事の大切さを、運営推進会議で伝えるなどの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットでの取り組み状況の報告や認知症ケアの取り組みの実際を報告し、意見を聞きながらサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では事業所からの活動報告のほか、毎回事業所が決めたテーマで勉強会を実施し、認知症ケアや事業所の取り組みへの参加者の理解を深めている。8名程度の家族の参加もあり、勉強会への評価は得ているが、議事録に残る意見交換が少ない。	地域代表として地区会長や民生委員にも出席を依頼するなど、参加者の幅を広げる取り組みにより、地域連携や意見交換の一層の充実につなげ、より多くの意見を得て記録することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症ケアに関する勉強会のお誘いや、介護保険サービスについて相談するなどの交流を持っている。	市担当課や地域包括支援センターとは、サービスにおける加算算定や、入居に関する情報交換、困難事例等運営上の相談を行い、アドバイスや介護保険制度に関する情報を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、全職員で身体拘束をしないケアを徹底している。外出傾向にある方には職員間で連携し、寄り添いながら支援している。隣接の老健施設の職員の見守り支援もある。	事業所内の勉強会では、身体拘束の具体的な禁止行為等を学習し職員に徹底している。利用者が拘束を感じる言葉づかいや、利用者にとって待ち時間や言葉づかい等について検討し、不穏による外出には気持ちを落ち着かせたり、散歩に出るようにして利用者が拘束を感じないケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を学び職員の認識を深めている。日々のケアの中で、虐待が見過ごされないように些細な事でも話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体会で日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会があり、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に利用者・家族の方と入居に関しての十分な話し合いの上で同意を得ている。些細なことでも疑問があれば、話し合い、解決に向けて取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしのかかわりや、会話のなかより、出てくる思いや願いを汲み取り、サービスや運営に反映している。	利用者には会話の中で希望を聞いたり、運営推進会議で利用者代表が意見を言う機会がある。家族の面会時には事業所から感想を聞き取る工夫をし、行事の時には家族同士で話し合う場を設け、意見を聞くようにしている。しかし、行事参加の家族数が5名程度であり、意見も少ない。	運営推進会議の開催日の利用や家族会への呼びかけ方法を検討し、家族同士の話し合いへの参加数を増やし、率直な意見を引き出す継続的な取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の生活のなかでの気づきを部所会で話し合って管理者に伝え、入居者の自立に向けての物品購入等の依頼をしている。	ユニット会では職員同士の意見交換を大事にし、出された意見を運営に反映するよう努めている。職員の提案で、利用者が座った姿勢で洗濯物を干せる物干し台を購入したり、勤務条件や、利用者の介護度に応じたケアの相談等を受け、内容に応じて代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場を訪れて、職員より思いや希望が出しやすいような雰囲気にも努めている。また、研修会参加へのサポートも段階的に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験などに応じて研修の機会を確保している。また研修報告は全体会で報告し、知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会に参加して情報交換やアドバイスを受けながらサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に本人が困っていることや不安なことがあれば、面談の時に話を聞く機会を十分にとり話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に家族等が困っていること、不安なことがあれば良く聞き、十分な話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いをよく聞き、必要としているサービスを含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしのなかで、昔の暮らしぶりや生活の知恵、調理方法などを教えてもらうなど、支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本音を伝えるににくい時は、家族や利用者の中に入り、思いや願いを代弁するなど、双方がより良い関係が築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通りすがりに足を止めてもらえるよう、庭先に出て一緒に談話したり、リハビリの帰りに顔をだして馴染みの関係が継続できるようにしている。また、馴染みの人や知人さんの定期的な訪問があるなど交流が持っている。	利用者が体操や休憩で庭にいるとき、脇道を通る知人と会話し事業所へ立ち寄ってもらったり、良心市に出品する顔なじみの住民等との交流が維持されるよう支援している。利用者毎の知人の情報を職員で共有し、来訪時に適切に対応できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のかかわりのなかでの、勘違いから嫌な思いが残らないように、難聴の方との利用者同士の橋渡しを行うなど、より良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も行事のお誘いや、会いに行ったり来たりする関係ができています。他の事業所に移り住んでも生活の様子を伝えるなどの支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活環境や暮らしのなかより、その時期時期の様子や思いを、かかわりの中で伺い把握に努めている。自発的に思いを出せない方には日々の行動や表情などから汲み取ったり、家族の方から話を聞くなどしている。	日々の利用者の思いや希望などを利用者の様子の変化や会話から把握し、意向に沿った支援に努めている。利用者の沈んだ様子や帰宅願望があれば家族に協力を求めたり、買い物希望があれば職員が同行して出かけている。職員が把握した個々の意向は生活記録に記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅と変わらない生活が送れるように、ご本人や家族の方から今までの暮らしぶりを伺っている。また、かかわりのなかで、過去の暮らしを聞くなど本人の全体像を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしのなかでの生活ぶりや表情や行動を把握しながら個々に持っている力を引き出すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に生活の様子を伝え、職員で話し合い、よりその人らしい暮らしを続けるための介護計画書を作成している。	利用者の生活記録や、面会や電話で聞き取った家族の意向を踏まえ、ユニット会で利用者に関する情報を出し合い、介護計画を作成している。計画は家族等の確認を得て決定し、基本的に6カ月ごとに見直すとともに、生活機能や食事状況等状態に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「できること」を発見し「できなくなったこと」を職員で共有することで「できることが」継続でき「できなくなったこと」が進まないように、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の付添いや利用者の体調に変化があれば職員が付き添い、病院受診し結果を家族に報告している。また、家族がホームで泊まる場合は食事提供を行うなどの支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問が定期的であり、利用者の楽しみの一つになっている。商店での金銭の支払いの場では、店の人の気づきがあるなど、ゆったりとしたなかでの買物ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診していただいている。かかりつけ医が変更になる場合も家族と相談するなど家族の意向に沿っている。	利用者及び家族の希望する医療機関で受診しており、緊急時の安心面から、事業所に隣接する協力医をかかりつけ医としている利用者が大半である。協力医への受診は職員が対応し、その他のかかりつけ医は家族の付き添いを基本としている。受診結果は、申し送りノートに記録し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態に変化がみられたら、診療所や老健施設の看護師に伝え、相談し助言を受け医療にもつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活の様子を伝えたり面会時に看護師や相談員の方などに、病状の様子や経過を伺うなど情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの対応の指針を説明し同意を得ている。医療連携支援体制も整えている。	看取りの指針について家族等に説明し、マニュアルに沿って対応ができるよう、主治医、看護師等との医療連携体制を築いている。隣接の診療所から週1回訪問看護があり、重度化した場合は状態を把握しながらかかりつけ医の指示を仰ぎ、事業所、家族と相談を重ねることにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修に参加し、急変時や事故発生時に対応できるように実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力や隣接の老健施設との協力体制のもと地震を想定しての避難訓練を実施している。	隣接の老人保健施設と合同で年2回防災、避難訓練を実施している。訓練には地域の消防団員も参加し、利用者を避難場所へ誘導している。法人の防災委員会で訓練や連携について話し合っているが、夜間想定訓練はまだ行われていない。	職員の少ない夜間の防火訓練は重要であり、防災委員会や運営推進会議等で計画を話し合い、現実に即した訓練を行うことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時のトイレ誘導や入浴時の場面、口腔ケア等本人の自立度に応じて、さりげなく声掛け対応している。	利用者の自尊心を傷つけやすいトイレや入浴の介助では、他の利用者の注意を引いたり、手をかけすぎないよう本人の意思を尊重したさりげない言葉かけを心がけている。また、個人的な話は居室で行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じて選択できるような場面に配慮しながら、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるものの、その時々希望や思いに沿っている。買い物を希望される方には一緒に同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向で決めている。選べない時は本人の好みの服が選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じてできる範囲内で食事に関わってもらっている。利用者が自主的に関わられるように配慮している。	食事作りでは、利用者に包丁で刻んでもらったり、米ときや盛り付け、座ってできる下ごしらえなど利用者の経験を活かして手伝ってもらい、食事の時の話題にしている。献立には、近くの良心市や差し入れてもらった旬の食材を使い、会話しながら季節感のある食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある方、水分量の少ない方、むせ込みのある方などを把握し個々に合わせた対応をしている。また栄養バランスよく食事が摂れるように栄養士よりアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	持っている力を引き出しながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後している。できない方にはその都度、声をかけながら、不安のないようなケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、個々に応じた声掛けやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄が自立している利用者が多いが、排泄パターンに留意して、失敗の起きないようさりげなく事前の声かけを行い、できないところを手伝う支援をしている。全介助の利用者にも誘導して、トイレでの排泄を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かしたり食物繊維を取り入れ、水分を多めに取るなどに配慮しながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に応じた入浴時間や入浴日に配慮するなど、個々に沿った支援をしている。	利用者の希望や生活習慣に合わせて声かけしながら入浴支援を行っている。不穏等から入浴を拒否する利用者には、家族に協力を依頼したり医師とも相談して、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付きやすいように適度に体を動かしたり、日光浴をしている。寝付けない方には、温かい飲み物を出したり、おしやべりなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにして保管し即座に確認できるようにしている。病状の変化あれば、薬剤師に報告・相談し、適切な指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日頃の生活の様子から、得意分野が活かせるような場面づくりの支援をしている。外出や行事などは、利用者と相談しながら、決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向に沿って、買物や散歩に出かけている。歩行が困難な方は、車椅子を使用し外出している。	日常的に、事業所周辺や近くの神社へ散歩に出かけている。地元の商店、良心市、道の駅などへも買い物に行き、外出の機会を増やしている。行事等の外出は利用者の希望を聞いて計画し、全員で行けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向にあわせて自己管理されている。個々の力に応じて、ご自分の財布より支払をしていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられるように希望に沿っている。手紙を希望された方には、葉書きを購入するなど手紙が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間からは、ご飯の炊ける匂いや柚子湯、居間には心地の良い音楽を流すなどの工夫をしている。また、庭先には花や木が植えてあり台所や居間から眺めることができ、利用者同士の会話の場や季節感を感じることができる。フェンスには植物を這わせるなど光の差し込みの調節をしている。	共用空間の窓が広く、彩光と眺望に優れ、風景から季節を感じられるようにしている。また、植物や立て簾で光量を調節している。居間の床の一部を畳敷きにし、冬はコタツを置き、壁には利用者の趣味で作成した作品等が飾られ、家庭的で親しみのある空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子を置いており、気の合った利用者同士が、壁画をみながら、会話している様子が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた馴染みの物を持参していただくようにしている。写真や思い出の物も持ち込まれている。	各居室では、馴染みの家具を居心地がよいように配置し、家族等の写真のほか、趣味で作った折り紙細工や人形等が飾られて利用者がその人らしく暮らす工夫が窺われる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる力に配慮しながら、場所や置場を目印や文字で書くなどして自立に向けた支援をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない